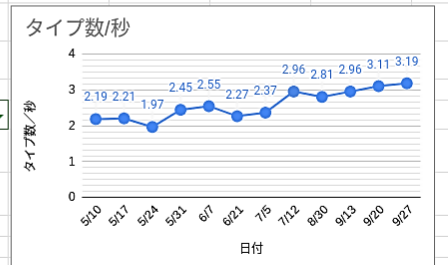


【取組内容①】 ホームポジションによる正確なタイピングの習得

本校の生徒は、ホームポジションでのタイピングを習ったことがない生徒が多かった。そのため、正しい鉛筆の持ち方のようにホームポジションでのタイピング練習に継続的に取り組むことで、各教科での端末使用時における文字入力の時間がかかるという苦手意識を軽減することを目指した。



2	★今までのタイピング練習についてふり返ります													
3	○ミスについて													
4	日付	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/21	7/5	7/12	8/30	9/13	9/20	9/27	10/4
5	ミス数	1.89	1.98	4.14	4.07	6.99	5.57	9.04	1.72	3.98	6.78	2.37	7.37	5.21
6	○1秒あたりのタイピング数について													
7	日付	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/21	7/5	7/12	8/30	9/13	9/20	9/27	10/4
8	タイプ数/秒	2.19	2.21	1.97	2.45	2.55	2.27	2.37	2.96	2.81	2.96	3.11	3.19	3.15
9														
10	★上のことからわかることはなんですか													
11	日に日に早くなっているが、ミスが増えている。													
12														
13														
14	★あなたのこれまでのタイピングの学び方についてどう思いますか													
15	ホームポジションを身につける方法がいいと思う。力になると思う。													
16	自由形でやると早いミスが増える。一方、ホームポジションでやるとミスは減るがタイプ数が少ない													
17														
18														
19	ホームポジションを身につけて、身についたら速さも意識する。													



右図：中学校2年生のタイピングの上達の推移の分析結果。毎時間授業開始の3分間の練習と、その後の1回の「うでだめし」を継続的に行い記録した。

【成果】前期中(約6か月間)に継続すると、1秒あたりのタイプ数は、タイピングミス数のばらつきは、まだあるものの、どの生徒も上昇傾向になってきた。グラフ化することで生徒は、自分の実力が高まってきていることを視覚でとらえることができるため、振り返りでも自身のタイピングへの自信がコメントからも伺える。

【取組内容③】生徒の端末で行える家庭学習用教材の作成

本市では、生徒の端末には国語、社会、数学、理科、外国語のデジタルドリルがあり、生徒自身が自分の学習進度に合わせて自分のペース各自の端末で取り組めるようになっている。しかし、他の教科はデジタルドリルがないため、教員がGoogle Formsで知識の問題集を作成し、自宅学習などで、各自のペースで勉強できるようにした。

問48 挿心とは、主要の先端を摘み取ることである。これにより、栄養が実に行き届きやすくなる。○か×か、1つ選びなさい。

問49 ミニトマトの実が割れたのは主に、水のやりすぎが原因である。○か×か、1つ選びなさい。

問50 トマトの尻ぐされ病は、カルシウム不足によるものである。○か×か、1つ選びなさい。



左図：職員が作成した問題の一部。「○」「×」で簡単に解答できるようにすることで、何度も挑戦できるようにした。

右図：生徒の合計得点の分布図。生徒の取り組みを分析し、誤答の多い問題について系統的に分析できた。

【成果】 生徒は、デジタルドリルのように回答すると即座に答え合わせができ、間違えても何度でも繰り返し、同じ問題に取り組むことができた。また、自分の学習進度に合わせて自分のペースで取り組むことができた。

教員は、生徒の取り組み状況や、どの問題、どの内容に生徒のつまづきがあるのか、分析し、生徒の理解度を把握することが容易になった。また、こうした分析結果は、教師の授業改善に活用することもできた。